

2 市勢の概要

2-1 位置・地勢・気候

本市は南九州の中央部及び宮崎県の南西部に位置し、北部は西米良村、熊本県多良木町、熊本県あさぎり町、東部は綾町、宮崎市、南部は高原町、都城市、鹿児島県霧島市、西部はえびの市と接しています。本市の南西部には霧島連山が、北部には九州山地の山岳が連なり、緑豊かな森林や高原が開け、清らかな溪流美を誇る河川とその流域には優良農地が広がり、ジオサイト（地質遺産）や温泉、湖沼等の個性的な地域資源も多数有しています。豊かな自然環境は重要な自然遺産として評価され、「霧島ジオパーク（宮崎県、鹿児島県の5市2町）」、「綾ユネスコエコパーク（宮崎県の2市2町1村）」に認定されています。また、市内には70を超す湧水があり、大地と人々の生活に潤いを与えています。

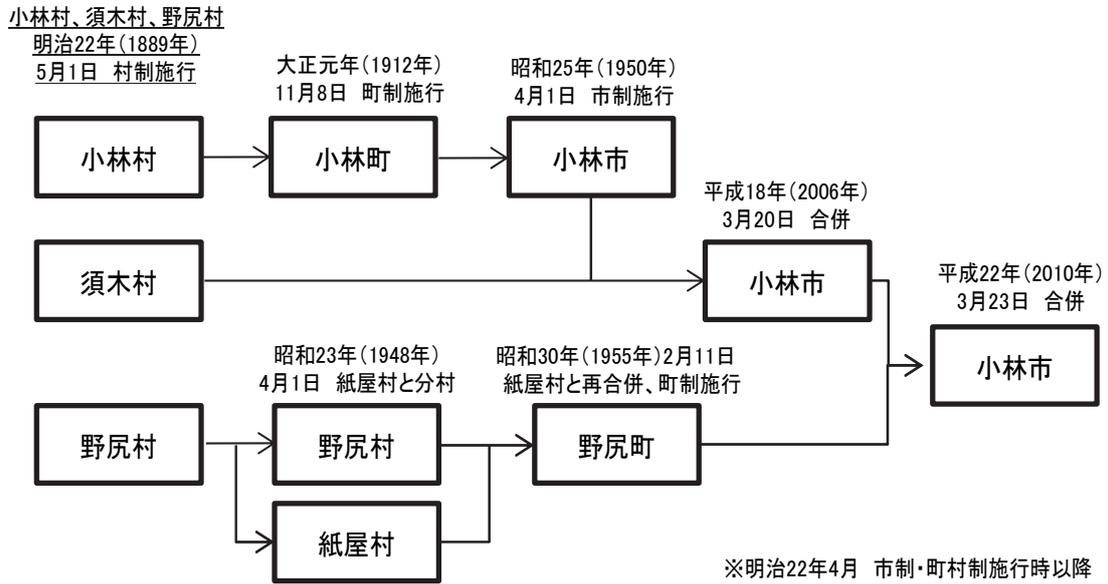
気候は、夏は暑く、冬は冷え込む内陸型の温暖多雨地域に属しており、年平均気温は約16度、年平均降水量は近年3,000mmを超えています。また、昼夜の気温差や夏と冬の寒暖差が大きく、霧の発生が多い地域です。

2-2 歴史・沿革

明治時代までに自然発生的に生まれた村は、明治22年（1889年）の市制・町村制の施行により、全国一律に町村合併が断行されました。これに合わせて小林村、須木村、野尻村の3村が誕生しました。

その後、小林村は大正元年に町制施行し小林町に、さらに昭和25年には市制施行し小林市となり、平成18年に須木村と合併し新小林市となりました。野尻村は昭和23年に紙屋村が分村したものの昭和30年に両村が再合併し野尻町となり、平成22年に小林市と合併し、現在に至っています。

図表 合併の変遷



図表 市の概要

● 位置

資料:企画政策課

方位	地点	東経	北緯
市役所(本庁)	細野300番地	130度58分30秒	31度59分35秒
須木庁舎	須木中原1757番地	131度04分29秒	32度04分27秒
野尻庁舎	野尻町東麓1183番地2	131度06分0秒	31度57分37秒
極 東	野尻町紙屋	131度00分	-
極 西	霧島山・韓国岳	130度52分	-
極 北	須木鳥田町	-	32度10分
極 南	霧島山・高千穂峰	-	31度53分

● 面積と標高

資料:企画政策課

面積	標高
562.95km ²	203.38m

※平成27年全国都道府県市区町村別面積調

※平成26年10月1日より小林市の面積変更 ※標高は市役所所在地、面積は一部境界未定

● 市の木等

資料:企画政策課

種類	市の木	市の花	市の花木	市の鳥	市の昆虫
名称	モミ	コスモス	桜	あおぼと	蛍

※平成19年2月22日制定

● 山岳

資料:企画政策課

名称	所在地	高さ(m)
霧島山(韓国岳)	小林市・えびの市・鹿児島県霧島市	1,700
獅子戸岳	小林市・鹿児島県霧島市	1,429
霧島山(新燃岳)	小林市・鹿児島県霧島市	1,421
御 鉢	小林市・高原町・都城市・鹿児島県霧島市	1,408
大 幡 山	小林市	1,353
中 岳	小林市・鹿児島県霧島市	1,332
夷 守 岳	小林市	1,344
大 森 岳	小林市	1,109

※第131回宮崎県統計年鑑 標高1,000m以上のもの

● ばく布

資料:企画政策課

名称	所在地	高さ(m)	巾(m)
霧の轟	東方(三之宮峽)	7.5	3.6
須木の滝 (ままこ滝)	須木下田	15.2	18.0

※第131回宮崎県統計年鑑

● 河川

資料:企画政策課

水系名	幹支川の別	河川名	流域面積(km ²)	流路延長(km)
大淀川	1支	本庄川	505.5	72.2
〃	〃	浦之名川	68.3	36.6
〃	〃	秋社川	22.6	7.5
〃	〃	岩瀬川	368.9	63.5
〃	2支	綾北川	212.8	59.2
〃	〃	袋谷川	13.2	3.0
〃	〃	九瀬川	10.8	4.5
〃	〃	神谷川	4.2	3.7
〃	〃	石瀬戸川	8.4	6.5
〃	〃	戸崎川	19.3	10.6
〃	〃	城の下川	17.5	10.0
〃	〃	辻の堂川	69.8	13.0
〃	〃	谷之木川	39.7	12.0
〃	〃	石氷川	85.3	14.9
〃	3支	大平山川	1.2	1.2
〃	〃	大沢津川	1.3	1.2
〃	〃	巢ノ浦川	27.2	5.0
〃	〃	佐渡川	4.5	3.8
〃	4支	青木川	1.0	1.6

※第131回宮崎県統計年鑑

● 気象

資料:企画政策課

区分	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日最大降水量(mm)	日照時間(h)
平成27年 (平均)	16.3	26.7	7.3	3,180.0	71.5	152.6
1月	6.4	15.3	-2.4	111.5	28.5	180.5
2月	6.2	16.2	-2.1	91.5	42.0	140.8
3月	10.4	23.8	-1.6	148.5	36.5	177.3
4月	16.7	26.9	7.3	208.5	38.0	123.3
5月	19.5	31.2	10.1	137.5	23.5	186.1
6月	20.8	31.2	13.6	919.0	133.0	73.1
7月	24.5	36.2	17.1	517.5	77.0	94.7
8月	25.8	35.8	19.5	384.0	138.5	195.4
9月	22.4	31.0	16.0	159.5	27.0	143.2
10月	17.7	28.4	8.7	40.5	32.0	251.1
11月	15.4	25.5	3.5	192.5	110.0	107.1
12月	9.6	19.3	-1.8	269.5	172.0	159.0

※降水量は、平均降水量ではなく年間降水量

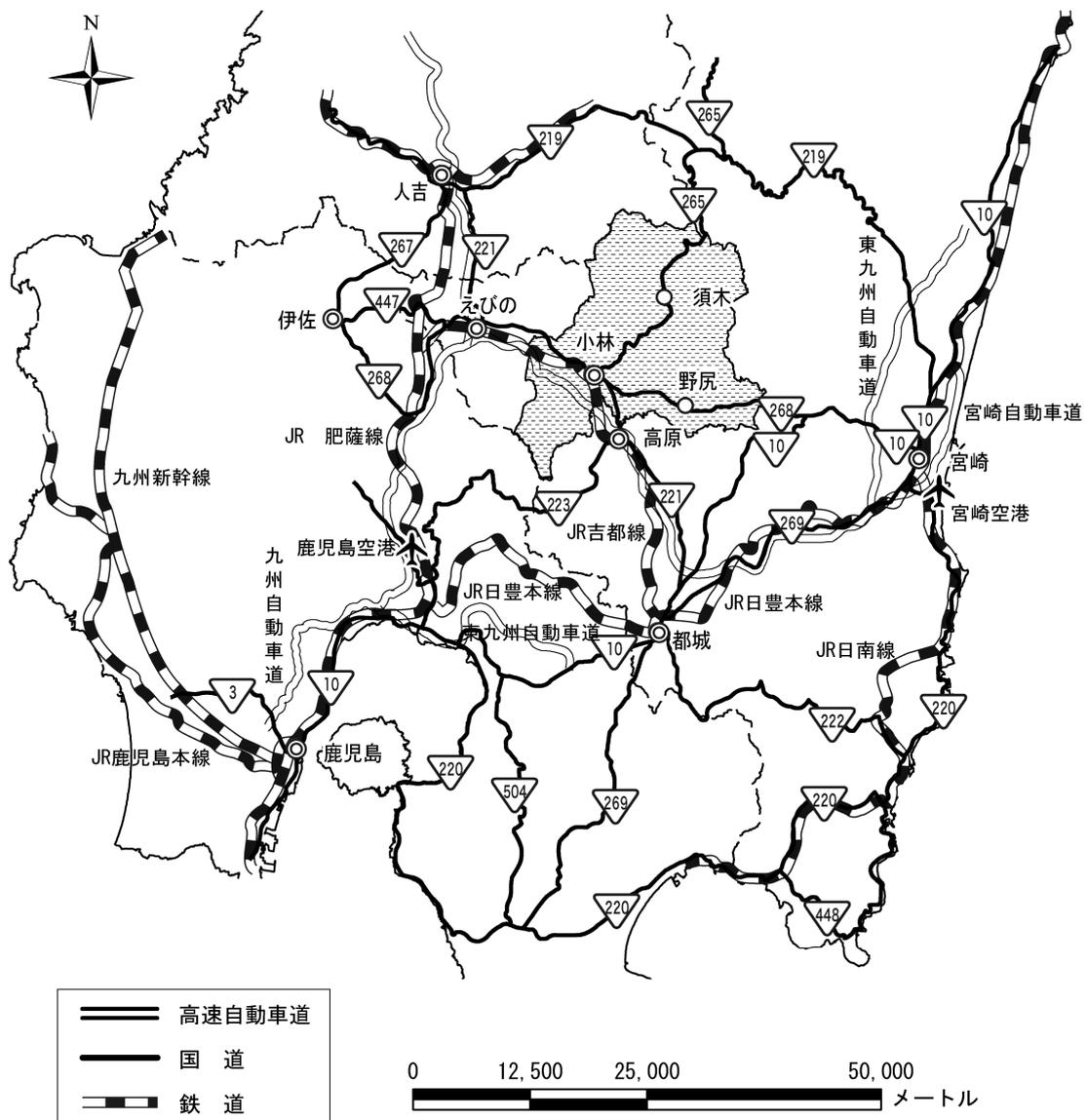
※気象庁ホームページ (<http://www.jma.go.jp/>)

2-3 交通

国道 221 号、265 号、268 号及び宮崎自動車道等の広域交通網が本市を中心に放射状に整備されており、広域的に宮崎市、鹿児島市、熊本市等の地方中核都市や九州自動車道、東九州自動車道、宮崎空港、鹿児島空港等と連絡しています。

また、鉄道は、日豊本線に接続する都城駅と、肥薩線に接続する吉松駅を結ぶ 61.6km の J R 吉都線が市内を通っており、主に通学的手段として利用されています。

図表 小林市の広域交通網図

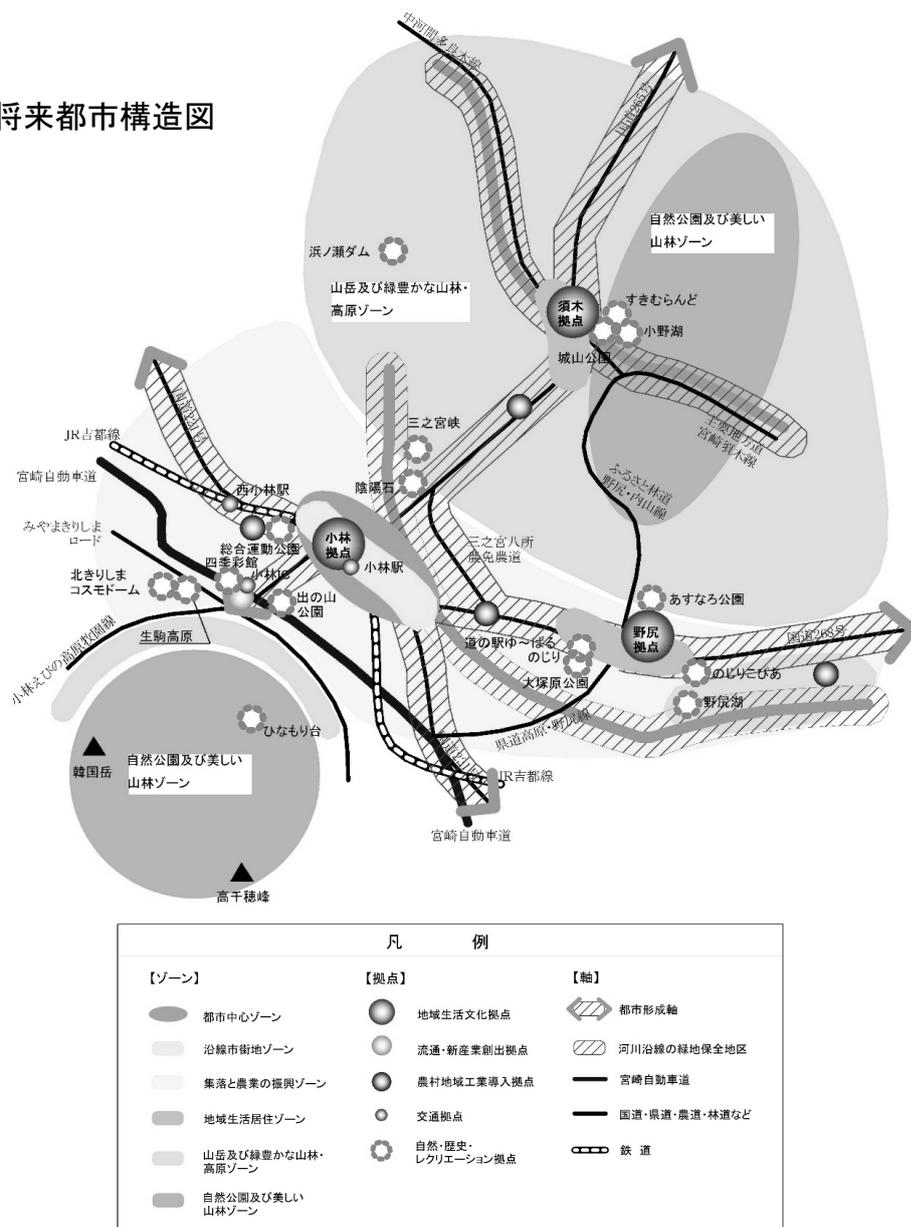


2-4 土地利用

本市の面積は562.95㎢で、県内4番目、県土の7.3%を占める広範な市域を有しています。緑豊かな森林や高原、湖や清らかな溪流美を誇る河川、その流域に広がる優良農地を始めとして、地球活動で生成されたジオサイト（地質遺産）や良質で豊かな水資源、由緒ある歴史文化等の個性的な地域資源に満ちあふれた都市です。

「国土利用計画（小林市計画）」及び「小林市都市計画マスタープラン」に基づき、長期的展望のもと総合的かつ計画的な土地利用を進めるものとします。

図表 将来都市構造図

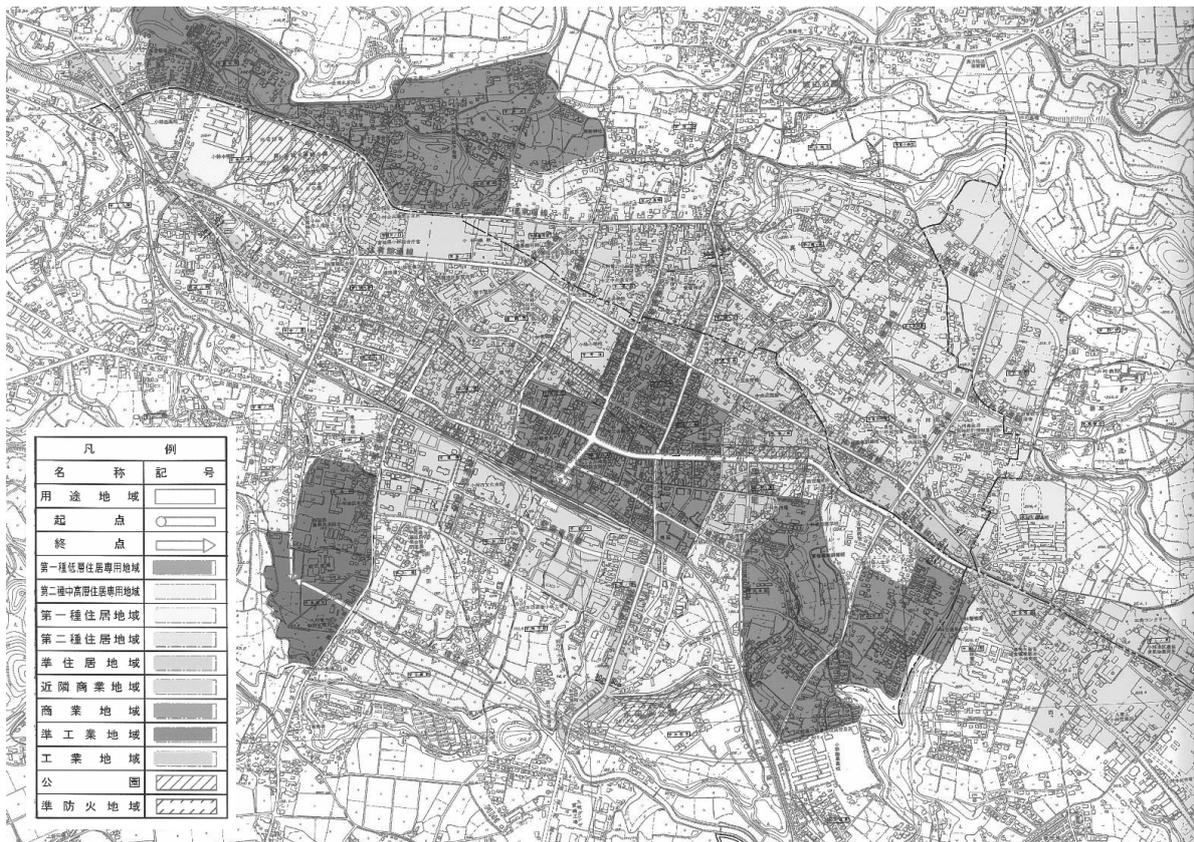


出典：国土利用計画（小林市計画）

図表 法規制現況図（都市計画）

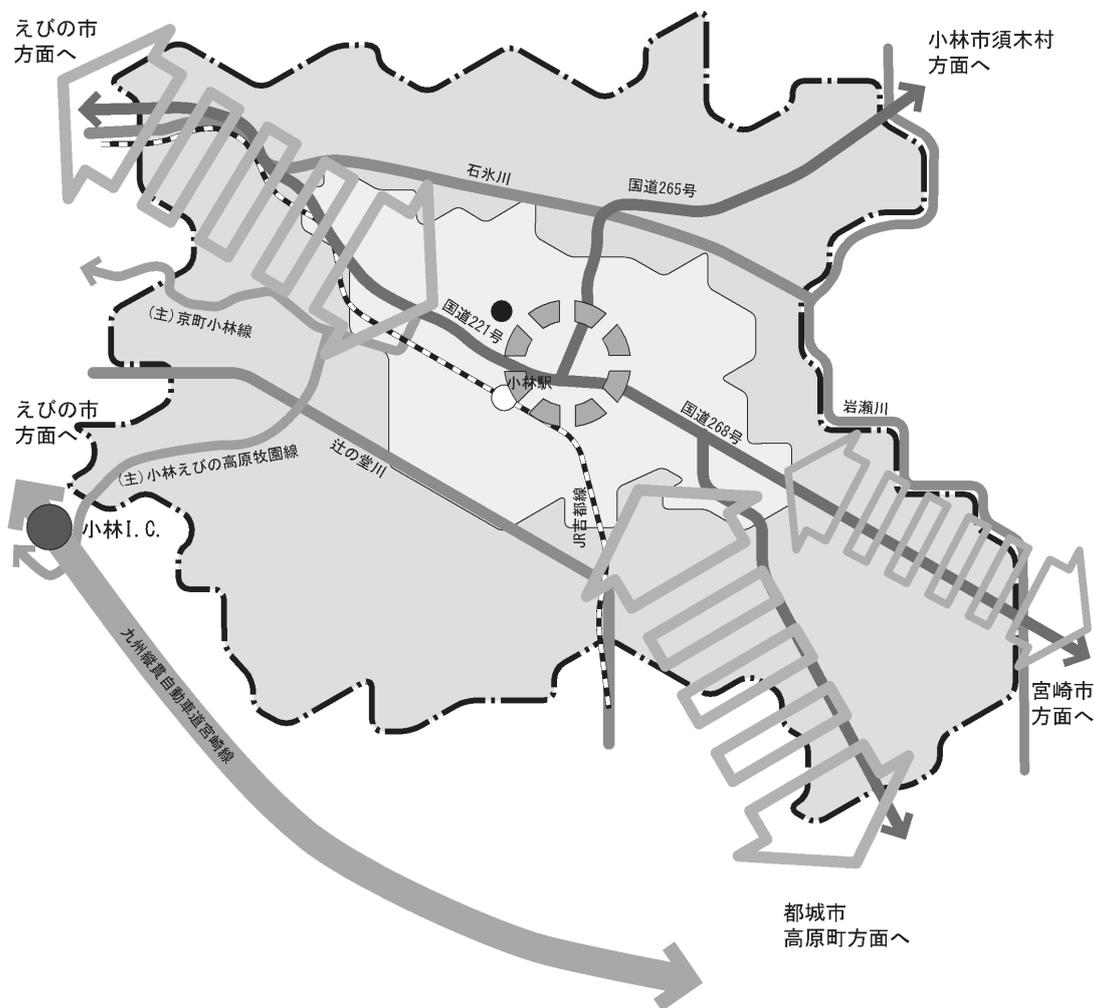
表：法規制（地域地区等）

区分		規模		
都市計画区域		2,360 ha		
用途地域		495 ha		
用途地域	第一種低層住居専用地域	71 ha	14.3%	400 ha
	第二種中高層住居専用地域	68 ha	13.7%	
	第一種住居地域	150 ha	30.3%	
	第二種住居地域	78 ha	15.8%	
	準住居地域	33 ha	6.7%	61 ha
	近隣商業地域	33 ha	6.7%	
	商業地域	28 ha	5.7%	
	準工業地域	16 ha	3.2%	
工業地域	18 ha	3.6%	34 ha	



出典： 小林市都市計画マスタープラン

図表 小林都市計画区域構造図



凡 例	
---	都市計画区域界
●	市役所
■	用途地域
——	高規格道路(広域連携軸)
——	国道
——	主要地方道
—+—	鉄道
——	主要河川
●○	主要な交通結節点
●	中心商業業務拠点
◁○▷	広域連携軸
◁○▷	地域連携軸



- <高規格道路>
高速道路などの広域的なネットワーク形成の要となる道路。
- <中心商業業務拠点>
圏域レベルでの中心的役割を担う商業業務地。
- <広域連携軸>
県内主要都市と隣県などの県外主要都市を結び、九州全体の中で広域的な交流・連携を担うべきネットワーク軸。
- <地域連携軸>
圏域間及び圏域内の都市を結び、都市機能の分担・連携を支援するネットワーク軸。



出典：小林市都市計画マスタープラン